



ブラジル中銀は予想外の政策金利据え置きを決定

- ブラジル中銀は市場予想に反し政策金利の据え置きを決定。レアル安進行によるインフレ上振れリスクを考慮。
- ブラジル中銀は追加金融緩和の必要性はなくなったとの認識を示し、次回会合でも政策金利の据え置きを見込む。
- ブラジル中銀は政策金利の据え置きによって、直接的にレアル安に歯止めをかける意図はないことを示唆。
- 為替市場安定化のため、中銀は5月14日より新規の通貨スワップ介入を開始。当面は為替市場の動向を注視へ。

ブラジル中銀は予想外の金利据え置きを決定

ブラジル中央銀行は5月15-16日の金融政策委員会(COPOM)において、全会一致で政策金利を6.50%で据え置く決定を下しました(図1)。市場では0.25%の追加利下げが予想されていましたが、足元のレアル安進行によるインフレ上振れのリスクをブラジル中銀が考慮したことが予想外の政策金利据え置き背景となった模様です。

市場シナリオ(政策金利と為替レートの予想前提に市場コンセンサスを使用)でのブラジル中銀のインフレ見通しは、2018年末が前年比+3.6%、2019年末が同+3.9%となっています(図1)。一方、今後の政策金利が6.50%で据え置かれ、レアル相場が過去5営業日平均の1米ドル=3.60レアルで今後も推移すると仮定した場合、2018年末と2019年末のインフレ予想はいずれも+4.0%近辺へ上昇するとの推定をブラジル中銀は公表しました。

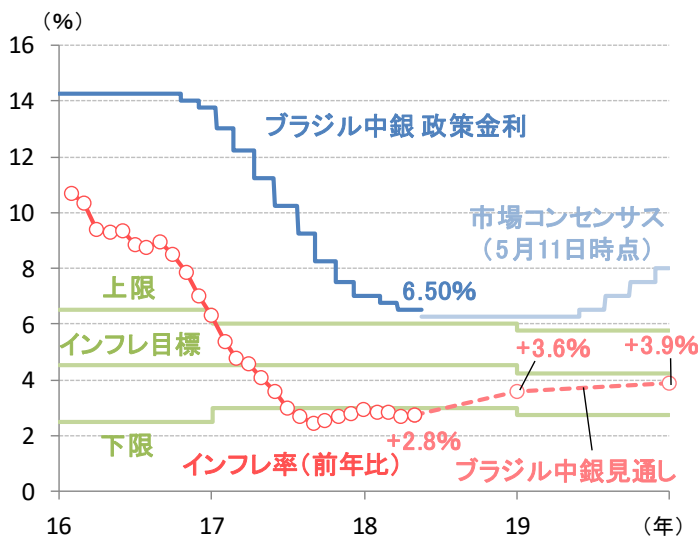
また、ブラジル中銀はインフレ率改善が遅れるリスクを抑制するための追加金融緩和の必要性はなくなったとの認識を示し、次回会合でも政策金利の据え置きが適切との見通しを公表しました。

ブラジル中銀は当面、為替市場の動向を注視へ

5月16日のブラジル・レアル相場は1米ドル=3.67レアル台と2016年4月以来の低水準へ下落しています(図2)。もっとも、ブラジル中銀は自身の政策決定はあくまで外的ショック(レアル安)による二次的なインフレ・リスクに対応したものであり、政策金利据え置きによって直接的に通貨安に歯止めをかける意図はないことを示唆しました。

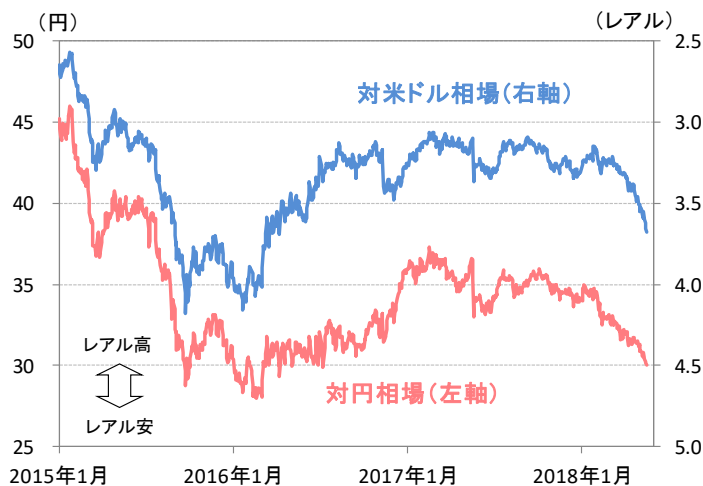
これとは別に、ブラジル中銀は為替市場の安定化のため、5月14日より日額2.5億米ドル規模の新規の通貨スワップ介入を実施しています。物価安定や高水準の外貨準備などを背景に、ブラジル中銀には金融政策や為替政策の面で多くの政策発動余地が残されており、当面は為替市場の動向を注視する状況が続くそうです。

図1:ブラジル中銀の政策金利とインフレ率



(出所)ブラジル中銀、ブラジル地理統計院(IBGE)
 (期間)政策金利:2016年1月1日~2018年5月16日
 拡大消費者物価指数(IPCA):2016年1月~2018年4月
 (注)ブラジル中銀のインフレ見通し(市場シナリオ)は、政策金利と為替レートの予想前提に市場コンセンサスを使用したもの。政策金利の市場コンセンサスは2019年6月末まで。

図2:ブラジル・レアルの対米ドル、対円相場



(出所)ブルームバーグ (期間)2015年1月1日~2018年5月16日

●当資料は、説明資料としてレッグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものでありますが、その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。